

# 配布する花の特徴

## \* サルビア

- 栽培特性：日光、肥料、水が好きな植物です。
- 場所：日当たりよく、排水のよい土地を選びます。
- 植え付け：良く肥えた土壤に元肥を混ぜいれ、  
赤の場合40～50cm・青の場合30cm程の間隔で植えつけます。
- 水やり：乾燥には比較的弱いため、水切れさせないようにし、土が乾いてきたらたっぷりと与えます。
- 肥料：元肥の他に開花中は肥料切れをしないように緩効性の化成肥料などを追肥します。
- 花がら摘み：咲き終わった花穂は摘み取ります。脇芽が伸びて花が咲きます。
- 切り戻し：盛夏に株が弱ってきたら1/3程に切り戻すと秋に再びたくさん花をつけます。



## \* ベゴニア・センパフローレンス（四季咲きベゴニア）

- 栽培特性：四季咲き性で、気温が20℃以上あれば年間を通じて開花します。
- 場所：日当たりよく、排水の良い、肥えた土地を選びます。
- 植え付け：元肥を混ぜいれたところへ25cm程の間隔で植え付けます。
- 水やり：土が乾いてきたらたっぷりと与えます。
- 肥料：花が咲き続けるので、元肥の他に緩効性の化成肥料などを追肥します。
- 花がら摘み：咲き終わった花はこまめに摘み、タネをつけないようにします。
- 切り戻し：茎の先端まで花が咲き終わったら、株元から切り戻しをします。枝数も増えて再びたくさん花をつけます。



## \* メランポジューム

- 栽培特性：草姿は自然とボール状にまとまります。夏の暑さに強く、次々と花を咲かせます。
- 場所：日当たりと排水の良い場所を選びます。
- 植え付け：元肥を混ぜいれたところへ30cm程の間隔で植え付けます。
- 水やり：高温多湿に強いですが乾燥が続くと生育が劣るので、土が乾く前に水やりをします。
- 肥料：チッ素肥料は控えめにします。
- 花がら摘み：新しい花が古い花を覆いかくしながら咲くので必要ありません。



## \* ニチニチソウ

栽培特性：高温と乾燥、炎天下に強く、次々と花を咲かせます。  
大気汚染にも強いので道路沿いの花壇にも適しています。

場所：日当たりと風通し良い場所を選びます。

植え付け：直根性で植え替えを嫌うので、植付け時は根鉢をくずさないように気をつけます。

元肥を混ぜ入れたところへ25～30cm程の間隔で植え付けます。

水やり：乾燥に強く、過湿に弱い植物です。

土が乾いてからたっぷりと与えます。

肥料：元肥の他に緩効性の化成肥料などを追肥します。



## \* ハナスベリヒユ（別名：ポーチュラカ）

栽培特性：性質は丈夫で夏の暑さに強い花です。  
雨天時や夜間は花が閉じています。  
長雨、排水不良で根腐れを起こしやすくなります。

場所：日当たりよく、排水の良い場所を選びます。

植え付け：元肥を混ぜ入れたところへ30～40cm程の間隔で植え付けます。

水やり：盛夏の乾燥時以外はほとんど必要ありません。

切り戻し：茎の先端までひとわり花が咲き終わったら、切り戻しをします。



## \* パンジー

栽培特性：寒さに強く、雪の下でも大丈夫です。  
日当たりが良く、涼しい場所を好みます。  
高温多湿に弱く、夏越しは難しいことから秋まき1年草とされています。

場所：日当たりと排水の良い場所を選びます。

植え付け：元肥を混ぜ入れたところへ25～30cm程の間隔で植え付けます。

肥料：花が咲き続けます。開花中は肥料切れしないよう追肥を与えます。

花がら摘み：花柄（かへい）の付け根から丁寧に摘み取ります。花を長く楽しむことができます。

